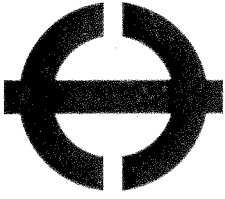


佐伯市文化財調査報告書

鶴谷佐藤蔵太郎旧蔵資料目録（稿本類）



佐伯市教育委員会

鶴谷佐藤蔵太郎旧蔵資料目録（稿本類）

佐伯市教育委員会所蔵

は じ め に

毛利・佐伯藩は東九州の僻地に位置する表高二万石の小藩ですが、三方を囲む峻厳な山並みは自然の要害ともなり、おのずと海洋に開けた地の利を活かす領国経営がとられていきました。この間、毛利氏の入部以来、外様に類しながらも江戸時代の全期を通じて御家断絶の憂き目にあうこともなく、厳しい幕藩体制をくぐりぬけてよく藩存続がはかられたことは注目すべきことであります。

そのことは、当時の政治・社会状況を克明に記録した藩の公的な記録や貴重な文献等の散逸を防ぎえたことにも通じるわけで、一連の系統的な藩政史料はまさしく郷土史研究の宝庫となっています。

今一つ特筆すべきは、第八代藩主・毛利高標侯が「佐伯文庫」蔵本（全盛期八万卷）として藩財政の大半を注ぎ込んでまでも蒐集した壮大な漢籍コレクションの存在であり、今日の残存本（約三千冊）によっても、隣国・中国文化への熱い憧憬の念がうかがえます。

両者は双璧をなす当市の誇るべき歴史遺産にほかならず、既に目録を作製し、その全容の解明に努めているところです。

このほか佐伯市には、やはり毛利家から寄贈していただいた江戸後期から近代にわたる和・漢・洋の図書類、並びに中島時軒、山口正名、佐藤鶴谷等の各旧蔵本を所蔵しております。今回、鶴谷が著録した稿本類と毛利高範侯が輯集した洋書について緊急調査を実施し、それぞれ「鶴谷佐藤蔵太郎旧蔵資料目録（稿本類）」、「毛利高範侯旧蔵洋書（独文）目録」として報告書を作製しました。

佐藤鶴谷（一八五五～一九四二）は、自由民権思想の高まりにより立憲政治への道が模索されるなか、明治十五年に矢野龍溪門下で文筆活動を開始し、同時に政党人としても一時期得意の論陣をはりました。以後大正初期までジャーナリストの道を歩み続けますが、しかし、氏の後半生は明治三十五年豊国史談会の創設を機に一転して郷土史研究に没頭してゆくことになり、その研究成果をまとめた著作類や編纂資料のほとんどは公刊されることなく、稿本のまま今日に伝えられています。

高範侯（一八六六〜一九三六）は肥後・細川家から来伯、毛利家第十三代として後を継ぎ、子爵を授けられて華族に列せられたのち、四年後の明治二十一年五月には若干二十三歳でドイツに留学し、それから三年の間西欧の文物をつぶさに視察したうえで、明治二十四年四月二十七日仏国汽船シドニー号で帰朝しております。

文化や国民生活の近代化を促進する必要から、率先して欧米の近代思想や生活様式などを積極的に導入していたおりに、知識人が先進国に寄せる関心の強さは並々ならぬものがあつたと思われまゝ。ここに高範侯が輯集した洋書は、とりわけドイツ文化に寄せた関心の深さを如実に示すものであります。しかも演劇・戯曲類等にかぎり、現存するものでも約六百分綴・冊に及ぶことはほかに類をみません。

歴史の動向に脈うつ外国文化を機敏に察知し、それをいち早く摂取しようとする姿勢は、かつて佐伯文庫の蒐集にみた高標侯の中国文化に対するそれ、と一脈通じているのかもしれない。

鶴谷が残した郷土史・資料にしても、高範侯が輯集した洋書類にしても、ほぼ同時代に生きた両者の業績と立場を異にした歴史的役割を学問的に再評価するためには、第一にそれらの厳密な書誌学的検討が是非とも必要になります。

幸いにも、福岡大学教授・秦行正先生と同助教授・和田達宜先生をお迎えし、それぞれの専門的分野から各目録を編輯していただきましたことは誠に喜びに堪えない次第であります。調査期間中は秦、和田先生とも書塵堆積裡をもとめず精力的に作業を進めていただきました。

ここにあらためて深甚の謝意と敬意を表するものであります。

いま国際化のなかの日本を唱えるとき、何よりもまず私たちの身の周りをしっかりと把握し、確固とした信念を備える必要があります。地方史また郷土史の問い直しが新たな関心を呼びおこしているのもそのためでありましょう。この二つの目録が郷土史研究はもとより広く学術研究に寄与することを心から期待しております。

平成三年

佐伯市教育委員会

目次

総記	1
書誌学	1
雑著	1
哲学	6
宗教	6
仏教	6
歴史	7
日本史	7
伝記	16
地理・地誌	20
自然科学	23
動物学	23
芸術	23
音楽	23
言語	24
日本語	24
中国語	26
文学	27
日本文学	27
中国文学	31

凡 例

一、この目録は、平成三年三月三十日現在整理を完了した、佐伯市教育委員会所蔵の鶴谷佐藤蔵太郎旧蔵資料（稿本類）を収録した。

一、所収の資料は日本十進分類法新訂八版に準じて分類排列した。なお、同一分類綱目内の排列は原則として五十音順としたが、一部地域順によった場合もある。

一、説明は、題名・冊数・編著者（筆写者）署名・成立・体裁・注記の順を追って記した。

一、題名は表題を採り、それを欠く場合は内題によった。

一、冊数は二冊以上に亘る場合のみ記した。

一、署名は原則として表紙記載のそれに従った。

一、成立はまず序跋の年次を掲げ、それを欠く場合は、調製・脱稿・刊記・筆写の年次で補った。

一、体裁は寸法・行字数・丁数の順に記した。

なお、行数や用紙の不揃いな場合は、行数・丁数をそれぞれ〔 〕で囲んだ。

一、注記は△印を付けて区別した。

（付 記）この資料の整理に当たっては、終始、山田健一氏の協力を得た。

鶴谷佐藤藏太郎旧蔵資料目録（稿本類）

秦 行 正 編

○ 総 記

書 誌 学

一 蔵書目録

佐藤藏太郎 明治二十四年十一月改

二五糶一七糶 無罫〔十行〕 一四丁

△表紙所蔵者名右肩「大分縣 大分町」

雑 著

二 燕石類函

三冊

第壹輯（鶴谷外史編次 二六・五糶一九糶 一三〇丁）第貳輯（鶴谷外史編次 二六・

五糶一九・五 一五三丁）第參輯（鶴谷外史編次 二六・五糶二〇糶 一四六丁

△見返「大正六年八月廿三日製本」

三 鶴谷文集 上卷

三二糶二四・五糶 無野一五行 二八丁

四 坎軻危言 全

鶴谷外史著 大正丙辰(五)歲抄自序(漢文)

二七糶一九・五糶 「鶴谷外史著作原稿紙」(柱) 三三字一五行 一一五丁

△扉書「鶴谷佐藤藏太郎 著／南豐 聞天書屋藏」

五 鷄肋集

一三冊

第壹綴(鶴谷外史草稿 二四糶一六・五糶 一五八丁) 第貳綴(二四糶一六・五糶 二

一三丁) 第參綴(二三・五糶一六糶 一七五丁) 第四綴(二三・五糶一六・五糶 一五

五丁) 第五綴(二四・五糶一六・五糶 一一四丁) 第六綴(二三・五糶一六・五糶 一

五二丁) 第七綴(二三・五糶一六・五糶 一五九丁) 第八綴(二三・五糶一六・五糶 二

〇二丁) 第九綴(二三・五糶一六・五糶 二二八丁) 第十綴(二三・五糶一六糶 一三

四丁) 第十一綴(二四糶一六・五糶 一四九丁) 第十二綴(二四糶一六・五糶 一一二

丁) 第十三綴(二四糶一六・五糶 二四四丁) △第壹綴緒言「後漢楊修曰夫鷄肋食之則

無所得棄之則如可惜本集題名取意於此矣 明治四十二年十一月二十一日 鶴谷誌」

△第九綴緒言「舊鷄肋集綴制歲次(秦注一表略) 以上冊數二十五卷(明一九・五)同四

六 新説天則圖會 全

一・二 紙数大約二千枚餘、今次悉ク之ヲ解キ更ニ其取ル可キモノヲ止メテ餘ハ之ヲ
廃棄シ册数十二卷ト為シ一卷別ニ大分縣史編纂資料之部ニ加フ 明治四十二年十一月
十九日 鶴谷外史誌

佐藤蔵太郎著 明治二十一年第十月自序 (漢文)

二四纏一六・五纏 無野一〇行 一九丁

△扉書著者名上「南豊」

七 新説天則圖會 全

佐藤蔵太郎著 明治著、雍困敦之歳季秋朗日自序 (漢文)

二二・五纏一六・五纏

△扉書著者名上「南豊」

序文「新説天則圖會序」(和文)・「新説天則圖會自序」(漢文)

八 禽獸
會議人類攻撃 全

佐藤鶴谷著 明治三十六年二月下浣。(南豊碩田ノ僑居破窓ノ下ニ於テ) 自序

二四纏一六・五纏 無野一二行 九七丁

九 政海雜記

△表題角書「二十世紀の一大奇觀」

卷頭著者名「南豊 鶴谷外史戲著」

佐藤藏太郎手記 明治二十三年第七月調製（扉書）

一八・五糎一一糎 縦罫二二行

△奥附「大分縣大分郡大分町千七十二番地 製本所 書林村上堂」(ノート)

一〇 有耶無耶録 第壹輯

鶴谷外史筆記

二五糎一六・五糎 「九州東岸新聞」割付用紙利用〔二五行〕 六丁

△表紙「秘書堅く他人の閲覽を禁す」

一一 引用考證

明治十年一月自序（記者）

一四糎二二糎（横本） 一八七丁

△背「第一号」

一二 作文自在引用考證

鶴谷崑生 明治十年春三月自序（桜生）

一四糵二〇・五糵 一八六丁

△表紙記名上「南豊」 背「第三号」

一三 所讀紀要 完

鶴谷外史手記

二二・五糵一六糵 「原稿用紙 大分日報社」二〇字一一行（三九丁）

一四 隨見隨記

菊亭主人 明治一五年四月調製

二三・五糵一六糵 罌紙一二行 九八丁

△緒言「前事不忘為後事師東京府下日本橋區両國藥研堀報知新聞社編輯局」

一五 文 材

菊亭主人 明治二十二年一月二日調製

二三・五糵一六糵 罌紙一三行 九八丁

△緒言「淑氣催黃鳥晴光轉綠蘋明治二十有二年春四月識於碩田寓 鶴谷外史」

一六 文 材

鶴谷外史隨筆 明治二十六年一月二十九日調製

二三・五纏一六纏 野紙一三行 九七丁

△表紙「二回以上読ムベキ価値アル文章ヲ綴ラント欲セバ数々塗沫セザル可カラス（ホ

レスノ語）」

○ 哲 学

宗 教

一七 眞神州 全

佐藤蔵太郎著 明治二十一年十二月上浣自序（上記年月ミセケチ）

二三・五纏一六・五纏 無野一二行 七二丁

仏 教

一八 佐伯五箇寺記 全

鶴谷外史草稿 昭和二年十二月自序（漢文）

三三纏二四・五纏 無野一五行 （三八丁）

△表紙「此原稿は只毛利家の舊記其の他佐伯に伝はれる諸種の書物又は記録等に據りて

起草したるまでにて直に各寺院に就き寺説縁起を調査したるにあらざれば固より他日
寺院に就きて親しく寺記寺説等を一閲し大に修正を加ふるの必要あり 昭和二年十一

月廿五日薄暮 鶴谷記す（下略）

一九 佐伯五箇
寺記第五 碧松山久成寺記

鶴谷佐藤蔵太郎著 昭和二年十二月自序（漢文）

三二・五糶二四糶

○ 歴 史

日本史

二〇 新撰国史纂要 稿本

佐藤蔵太郎著

二八糶二〇糶 無罫二二行 五〇丁

△表題（副題）「第一編 太古時代 第二編 上古時代」

二一 大分縣史編纂資料

第壹號（鶴谷外史編次 明治四十一年二月四日調製 二三・五糶一六・五糶 罫紙「大

二三 實地探見史料雜記

- 分縣「一三行 三八丁」第貳號（鶴谷外史編次 明治四十一年九月二十四日調製 九二
- 丁）第參號（鶴谷外史編次 明治四十一年九月二十六日調製 二三・五糶一六糶 一一
- 丁）第四號（鶴谷外史編次 明治四十一年九月二十八日調製 二四糶一六・五糶 七七
- 丁）第五號（鶴谷外史編次 明治四十二年十一月十八日調製 二四糶一六・五糶 五十
- 丁）第六號（鶴谷外史編次 明治四十二年十一月二十日調製 二三・五糶一六・五糶 九
- 三丁）第七號（鶴谷外史編次 明治四十三年一月七日調製 二三・五糶一六糶 六一丁）

- 鶴谷外史 明治三十八年三月二十四日調製
- 一九・五糶一二・五糶 無野雜記帳 四二枚
- △表紙「豐國史談編纂材料」

二三 豐後國內舊延岡領石高及比郡村名記

- 鶴谷外史 大正十二年二月二日調製
- 二三・五糶一六・五糶
- △表題添書「大分郡三十五ヶ村 國東郡二十三ヶ村 速見郡十六ヶ村」

二四 不知火異聞

鶴谷外史著 明治三十三年秋十月下浣自序（漢文）

二六・五糎一九・三糎 無野一二行 七二丁

△表紙欠 卷頭著者名右肩「南豐」

二五 鶴賀城戰史

鶴谷佐藤藏太郎 大正十五年八月自序（漢文）

三三・五糎二四・六糎 「朝日村史原稿用紙」（一部「宇佐郡政史原稿用紙」三七字一

五行 六五丁

△表紙欠

二六 大分縣四十年鑑 全

佐藤藏太郎著 明治四十四年一月自序（漢文）

二七糎二〇糎 無野 四三丁

△表紙「明治四十四年一月廿二日」（扉書、凡例「十九日」）

二七 大分縣事歴撮要録

鶴谷佐藤藏太郎著 昭和十年七月自序（漢文）

三二・五糎二四糎 無野一五行 百一丁

△内題・序・凡例「大分縣史」、目次・卷首「大分縣事歴撮要録」

表題副題「自明治四年至昭和十年六十六年間」

二八 大分縣管内志增補資料

鶴谷佐藤蔵太郎著 大正八年七月三十日調製

△袋のみ(中味一欠)

二九

大分縣下
水害慘狀録

上卷

佐藤蔵太郎編輯 明治二十六年十二月十五日(大分日報社樓上編輯局に於て之れを誌す)

自序

三六糎一九糎 「原稿用紙 佐藤氏蔵版」(柱) 三〇字一二行五二丁

△表紙(朱書)「若書原稿 自序言至第貳拾」

序・内題「大分縣下
水害慘狀録」

三〇 豊豫關係史 全

佐藤蔵太郎編纂 昭和四年九月自序(漢文)

三三糎二四糎 無野一五行 六九丁

三二 西國東郡誌編纂資料

三冊

第壹號（佐藤蔵太郎編 大正十二年二月廿八日調製 二四・五糎一六・五糎 一七八丁）
「西國東郡役所」（柱） 罫紙一三行 第貳號（窪谷外史 大正十一年二月四日調製 無
罫十行 二七丁） 第參號（佐藤鶴谷編 大正十二年二月廿八日調製 二四・五糎一六・
五糎 罫紙一三行 二二〇丁）

三二 西國東郡町村長助役就任退職記

鶴谷外史 大正十一年九月廿日調製

二三・五糎一六糎 「西國東郡役所」（柱） 罫紙一三行 四〇丁

△角書 「自町村制實施ノ至大正十一年」

表紙 「西國東郡誌編纂資料 第五號」

三三 姫島志 第壹綴

鶴谷外史著 大正十年九月下浣自序（漢文）

三一糎二二糎 無罫一四行 （四三丁）

△表紙 「大正十年八月廿一日ノ八月四日歸宅同七日稿ヲ起ス此ニ至ル十五日トスノ九日
写」

三四 朝日郵史編纂資料

鶴谷外史 大正十四年三月九日調製

二四糶一七糶 無罫〔二〇行〕 三三丁

三五 白杵町史編纂資料

鶴谷外史 大正七年一月調製

二四・五糶一七糶 「白杵町役場」(柱) 罫紙一三行他 〔二三〇丁〕

△表紙「大正七年一月／大正六年十一月十一日白杵町役場ニ至リ歸後起草此材料ハ白杵^{つぐ}役場書記小城長次郎氏ノ隨調隨送サレシモノ也／記念故紙第四百十五號」

裏表紙「六年のちやうしはづれて長延びて今なゝとせの弥生にぞ濟む 白杵町史ハ大正六年十二月まで脱稿すべきところ、いろ／＼の注文あり、且資料の送附遅々せる為め、遂に年を越へ翌七年三月に及び漸く脱したり 雀谷しるす／大正六年十一月中旬起草、七年三月成る、月を閲する四び、而して紙数五百頁に垂んとす、本著の如きは予に於て長時日を要せしを感ずるも、普通著書に比すれば然して長きにあらず □□
七年三月十一日黄昏識す 雀谷生」

三六 津久見町誌編纂資料

〔佐藤蔵太郎編〕

三三糶二三・五糶 無野一五行 二四丁

△内題「津久見町發展史」

三七 豊後佐伯事歴通鑑 全

鶴谷佐藤蔵太郎著 昭和十一年十二月自序（漢文）

三二・五糶二三・五糶 無野（一五行） 二五丁

三八 佐伯藩領内天領由来記 全

鶴谷外史編述

三二・四糶二三糶 無野一五行 五丁

三九 藩政時代の佐伯在浦記 全

鶴谷外史著 昭和十二丁丑二月自序（漢文）

三二糶二四糶 無野一五行 一九丁

四〇 佐伯町誌

二七糶一九糶 無野一三行 七九丁

△著者名なし。別人清書稿か。

四一 新佐伯案内

佐藤鶴谷著 大正十二年十月自序 (漢文)

三三・五纏二四纏 無野一六行 (八一丁)

△序文内題「新佐伯案内記序」

四二 維新前後に於ける佐伯の状況

鶴谷外史手記

三二・五纏二四纏 無野一五行 五丁

四三 佐伯藩士禁錮騒動之顛末記 全

鶴谷外史聞見筆録

三二・五纏二三纏 無野一五行 三丁

四四

明治十年西南之役に於ける
佐伯臼杵二城市實況記

鶴谷佐藤蔵太郎著

三二・五纏二三・五纏 無野六丁

△表紙「豊國史談會 蔵書」

四五 南海部郡史 全

鶴谷佐藤蔵太郎著 大正八年九月自序（漢文）

三三纏二四纏 無野十四行 二三一丁

△表紙「大正十年五月 豊國史談會」

佐伯方言一斑 六丁 附録として合綴

四六 南郡郷土史談

鶴谷佐藤蔵太郎編纂

二四・五纏一七纏 無野一行 五四丁

△「新興佐伯繁盛記」 三四丁 合綴

四七 東上浦村誌編纂資料

鶴谷外史 昭和六年八月十八日調製

二四・五纏一六・五纏 （野紙一二行） 九五丁

△表紙「昭和六年五月十二日東上浦村役場ニ至リ村長菅伊作氏ヨリ編纂料金ノ内幾分ヲ
受取り兩三日滞在シテ蒲戸、福泊、長田、夏井等ヲ巡視シ資料ヲ集メ役場ノ記録ハ助
役本田善太郎氏ヨリ隨時送附ヲ受ケタルナリノ記念故紙百五十一號」

四八 川原木村誌

鶴谷佐藤藏太郎編纂 昭和五年十二月自序（漢文）
三三・五纏二四・五纏 原稿用紙三七字一五行 三五丁

伝記

四九 日本名士壽數錄

鶴谷佐藤藏太郎 昭和十年乙亥十二月自序（漢文）
三二纏二四纏 無罫一五行二段組 一六丁

五〇 大分縣被贈位者畧傳編纂資料

全三冊ノ内甲冊（鶴谷外史 大正十四年八月三日自序 二四・五纏一七纏 原稿用紙二四字九行 一四三丁 △表紙「大正十四年八月二日製本」 全三冊ノ内乙冊（二四・五纏一七纏 原稿用紙二四字九行 一六九丁 △表紙「大正十四年八月二日製本」 全三冊ノ内丙冊（二二・五纏一五・五纏 原稿用紙二四字一〇行 二二七丁）

五一 大友氏系圖并諸士面附戸次氏系圖

大正八年七月十三日後記

二四纏一七纏 無罫（八行） 七五丁

五二 大友氏歴代墳墓圖志 全

鶴谷佐藤蔵太郎著 明治四十三年二月廿二日自序

二七糶一九糶 表無野・裏野九行 一七丁

△扉「明治四十三年二月廿二日」

五三 大友氏歴代墳墓調査録 壹

佐藤蔵太郎編輯 明治三十六年三月二十日自序

二七糶一九糶 無野一二行 一四丁

△表紙「初代能直公之部」

五四

大友
柱石 七大家家録 全

鶴谷佐藤蔵太郎編纂 昭和二年三月自序（漢文）

三二・五糶二四糶 無野（一五行）・原稿用紙三七字一五行

九七丁

△扉「第一編大友氏ノ社稷歴世 第二編戸次氏 第三編木付氏

第四編志賀氏 第五編佐伯氏 第六編吉弘氏 第七編田北氏

第八編朽網氏」

五五 訂正
増補 榎牟禮實記 全

鶴谷佐藤威太郎著 昭和十三年三月自序（漢文）

三〇・五纏二四・五纏 無野二四丁（含「鶴谷外史、著述、編纂、書目、第二」）

△扉書「昭和十三年 豊國史談會蔵書」
三月

五六 越智姓河野系譜

鶴谷外史寫 大正八年七月三十一日（写）

二四・五纏一六・五纏 野紙 五丁

五七 河野姓研究記

鶴谷外史

二四・五纏一六・五纏 無野（二五行）一九行） 九丁

△表紙「三島大明神の祭神」

五八 佐伯藩主毛利氏史

鶴谷外史秘書

二四・五纏一六・五纏 無野（十二）十五行） 十二丁

△表紙「自藩祖高政公／至十二世高謙公」

後記「此書昭和二年十二月廿二日午前十時ヨリ午后四時迄七時間ニ謄写シ終ル」

五九 佐伯藩主毛利氏史

二四纏一六纏 罫紙十二行 一四丁

△副本

六〇 元和西覽録草稿

鶴谷外史著 明治四十五年三月自序（漢文）

三二・五纏二四・五纏 原稿用紙三六字一四行 三一丁

△表紙「越前宰相松平忠直元和九年五月ヲ以テ當豊後國萩原ニ謫セラレ尋テ寛永三年正月津守ニ徙サレ慶安三年九月逝去ニ至ルマデ前後二十八年ニ至ル狀況ノ顛末ヲ記述シタルモノナリ明治四十五年三月九日」

（目次）内題下「松平忠直謫居録」

六一 勤王志士青木猛比古

鶴谷外史草稿 大正六年十月三日脱稿

二七・五纏二〇纏 無罫一六行 九丁

△表紙「青木猛比古の経歴は、極めて瞭ろげにて、彼れが出生地の老人すら、碌々知り

得る者なし、此傳(マ)紀は只同人が、書翰及び、僅かに残れる書付け等に依り、年代を測りて綜合し、書き綴りたるものに過ぎず、されど彼れが生前に於て、交りたる人、又事を共にしたる人より直接予の聴き取たる事實なきにあらず、即ち竹田町熊田資直氏の談話及隨筆、下村三敏翁の談話、首藤周三氏の談話の如きは青木猛比古の傳記篇述には頗ぶる有益無比の材料と思せらるゝなり、本編固より改竄を要すべきもの多々あり、尚ほ予は下堅田邨に出張し、事跡調査を自から為したる上、更に稿を改めて、可及的正確完全に近き傳記と為し置んと欲するなり窪谷生識」

△内題・署名「鶴谷外史未定稿」

地理・地誌

六二 北海道郡北部地理畧記

二三・五糧一六・五糧 無野 (二四〜一六行) 一二二丁

△後記「比原書ハ肥後國志署附 森本一瑞輯豊後國三郡之内下ニアルモ記事の疎漏行文ノ雜畧恐クハ肥後國志ノ畧附各ニ副ハザルモノ多シ參考ノ為メ暫ク鈔写シ置クモ他書ト校シテ修正セント□□ガ為メナリ四十五年六月十七日」

六三 自慢競七縣人 附たり沖繩縣人 全

海部黒人(戯)著 九州沖繩八縣聯合共進會に先つ二年。大正八年三月自序

六四 編史資料

三二糶二四糶 無野一四行 九九丁

△角書「九州沖繩八縣聯合自慢競進會」

鶴谷外史草稿 昭和十四年四月二十四日後記

三三・五糶二四糶

△表紙「有益考証ニ資スル記事多々アリ」

見返「此冊中に記載せる幾多の草案原稿は、多大の労力と時間とを費して書きしものなり、而して一も全部完全の著書として世に著す事の出来ざりしは、誠に遺憾千萬なり、斯か如き断片の旧稿として廢籬に納め置んとは夢想せざりしなり、嗚呼光陰は矢の如く、人間の為め、一刻も半刻も留まるものにあらず、予本年八十五歳往事を顧みて感慨無量なり、恨みを忍びて一言冊端に記す、昭和十四年四月二十四日 鶴谷外史識」

六五 大分縣管内古城址一覽

昭和二年三月八日調製

三三糶二四・五糶 原稿用紙三七字一五行 八丁

△表紙「本書ハ昭和二年三月十一日淨書シテ縣廳ニ送達ス」

六六 大分縣史蹟名勝誌

三三糲二四糲 無野一五行 六丁

△表紙欠

六七 訂正 豐府畧記 全

原著者未詳・佐藤鶴谷修正 昭和七年五月鶴谷外史序（漢文）

三三糲二四・五糲 無野一五行 六七丁

六八 鶴谷文集 第二輯 四十六章

一名豊國史實辨妄 全／豊國史談會藏書

（豊國佐伯）佐藤鶴谷著 大正四年二月下浣（刊記）

二三・五三糲一六糲 「九東岸新聞原稿用紙」（柱）一八字九行（楨目不用） 三三丁

△豊陽雜俎一名豊國史實辨妄 全

六九 南郡 中野靈區名勝案内記 全

佐藤鶴谷著 昭和二年六月下浣自序（漢文）

三三・五糲二四・五糲 原稿用紙三七字一五行 二八丁・写真添付用割付四丁

○ 自然科学

動物学

七〇 水産物名義小鑑 全

鶴谷佐藤蔵太郎著 昭和十年乙亥五月自序

三二・五纏二四纏 無野一五行 五四丁

○ 芸術

音楽

七一 太古神樂詳解
史蹟

佐藤鶴谷 昭和三年十月自序(漢文)

三三纏二四纏 無野一五行 一七丁

○ 言 語

日本語

七二 鶴谷隨筆 全

佐藤藏太郎纂輯 明治二十九年初夏自序

二七糵一九・五糵 「原稿用紙 佐藤氏藏版」(柱) 三〇字一二行 二〇二丁

△内題「山之井集」

七三 粹艷語林 全

菊亭香水編纂 明治十七年十二月六日(菊亭主人香水藏書) 後記

三二糵二四・五糵 野紙一五行 五四丁

△扉書「粹艷語林全二冊」

裏表紙「明治十七年十二月八日黄昏浪華毎朝新聞社ニ於テ紀ス」

七四 操觚
必携聯珠字林 全

鶴谷佐藤藏太郎著 大正歲次丙辰(五) 窮陰穀且自序(漢文)

△扉「大正八年巳未一月十五日」

七五 日本雅俗故事類纂 全

佐藤蔵太郎著 明治四十あまり一年の時雨月。豊の國。於保岐陀なる假やどりの窓の下に自序

二七糶一九・五糶 「原稿用紙 佐藤氏蔵版」(柱) 三〇字二二行 一九八丁

七六 鶴谷零藻

鶴谷外史著 大正二年六月調製

二五・五糶一九糶 「原稿用紙 佐藤氏蔵版」(柱) 三〇字二二行 一四六丁十書目二丁

△扉「冒頭形容文語類纂 全／鶴谷零藻(傍題)／明治三十七年十月廿四日製 紙數三百頁／

明治三十七年十月廿二日(刊記)

「明治三十七年十月十八日南府内僑居の窓下に於て」自序

(目次) 内題「作文材料千言萬語」

七七 麗藻類纂文語大全 上

鶴谷佐藤蔵太郎著 明治庚戌(四三)暮秋自序(漢文)

三二・五糶二三・五糶 原稿用紙二九字一三行 二二二丁

七八 麗藻類纂文語大全 下

九五丁

△一軌上・下二冊。揆軼題僉・副書「部門三十七、題八百二十五、用語長短壹萬七千五百四十餘」

七九 和漢俚諺成語大全 附錄忠孝格言 全

鶴谷外史編纂 大正十四年十二月於聞天樓南窓下自序（漢文）
二四・五纏一六・五纏 罌紙一三行 一九四丁

中国語

八〇 著家
必讀小説字彙

鶴谷外史（編） 明治二十二年七月例言
一一纏一六纏 罌紙一二行二段組 三九丁

○ 文 学

日本文学

八一 文士佐藤鶴谷 全

〔佐藤鶴谷〕 大正十四年秋九月自序（漢文）

三二・五糎二四糎 「宇佐郡政史原稿用紙」（柱）三八字一五行 五四丁

八二 日 乘

鶴谷外史 大正十五年五月〔十九日〕ヨリ

一九糎一三・五糎 無地ノト

△至同年十月廿九日

八三 豊後國古蹟名寄 全

後藤真守〔編〕 明治十三年跋

二三糎一六糎 野紙一三行 一六丁

△卷末「明治四十二年五月寫 鶴谷外史」

八四 俳諧名句之彙

鶴谷外史編纂 明治四十年六月九日

二四・五纏一六・五纏 無野（一五行）

△裏表紙「法則杯云フモノハ渾テ便宜上ノ假定ニ過キサルモノテアル 天地ノ法則ニ據ル杯云フモ決シテ別ニソソナモノアルナシ 文法トテ別ニ六ヶカシキモノニアラズ 只言葉ノ排列上ニ於ケル相互ノ關係ヲ法則ニマトメルモノテアル

明治四十年六月九日よめる

（ミセ消テ）
人に誠ありと思ひて幾度 おのが 我か おろかさ を悔ひにける哉
己か

八五 軍都名城古蹟詩歌文集
佐伯

鶴谷外史著

二六纏一八・五纏 無野（八〇一一行）二段組 三丁

△広告紙裏使用

八六 新編國史唱歌

佐藤蔵太郎著

二六・五纏一九纏 無野五行二段組 二五丁
△卷尾「新編國史歌卷之一畢」

八七 田園新聲音頭集 全

鶴谷佐藤藏太郎著 昭和四年涼秋九月自序
三二・五纏二四纏 原稿用紙三七字一五行 六九丁

八八〔番匠川 上・下〕

二八纏二〇纏 無野七行二段組 一〇丁
△表紙欠

八九 琵琶之歌詞

鶴谷外史作歌 昭和十年十一月八日〔調製〕
二四纏一六・五纏 無野一九丁
△琵琶歌詞〔五編〕 六行二段組 一六丁 (合綴) 佐伯の四季〔昭和七年二月十三日稿〕〔七行〕段ヌキ 二丁

九〇 淨瑠璃題名集

鶴谷外史 大正六年九月十六日寫

二四・五纏一六・五纏 野紙一二行二段組 七丁

△巻尾「以上三百二十六種 大正六年九月十六日午後四時三十分ヨリ五時四十分マテニ
寫了時間ヲ要スルモノ一時間半」

九一 宇佐の神勅（初幕）四幕

鶴谷外史著作 「路野豐永隱遯の場」(大正二年十二月廿五日脱稿) 「宇佐八幡社頭祝

禱の場」(大正二年十二月廿九日脱稿) 「清麻呂神勅復奏の場」 「同返し大隈流謫途

上の場」(大正三年一月七日脱稿)

二八纏二〇纏 野紙一二行 二六丁

△表紙「歴史劇脚本」

九二 失意の青年

鶴谷外史著 明治辛卯(癸卯一三六)臘月。題於府内城南橋居破窓之下自序(漢文)

二八・五纏二〇纏 「鶴谷外史原稿紙」(注) 三四字一三行 五三丁

△表紙「起稿明治三十四年十月一日／脱稿明治三十六年十二月十五日／此著閱年一歳経
日二六而(以下不明)」

九三 新陽春

佐藤鶴谷著

二五糎一八・五糎 「原稿用紙 佐藤氏蔵版」(柱) 三〇字二二行 九六丁 挿画四葉貼
付

中国文学

九四 唐宋百家麗清詩料

佐藤蔵太郎編纂 明治三十八年七月廿九日題言(漢文)

二三・五糎一六・五糎 原稿用紙(「豊國史談編纂用紙」) 二六字二二行 八四丁

△扉「明治三十八年八月一日／疎影堂蔵書」

佐伯市文化財調査報告書

鶴谷佐藤蔵太郎旧蔵資料目録（稿本類）

平成三年

発行 佐伯市教育委員会

〒八六六 佐伯市中村南町二丁目
電話（〇九三）三三三二二

印刷 佐伯印刷株式会社

本社 〒八〇〇 大分市古国府二丁目
電話（〇九三）三三三二二
佐伯工場 〒八六六 佐伯市中央区新屋敷四丁目
電話（〇九三）三三〇二〇